

異文化コラボレーション論文特集の発行にあたって

異文化コラボレーション論文特集編集委員会

委員長 石田 亨



異文化コラボレーションは、異文化コミュニケーションを介して行われる目的指向のグループ活動である。本時限研究専門委員会が、異文化コミュニケーションではなく、異文化コラボレーションを研究のターゲットに選択したのは、目的指向の活動を具体的に支援することを通じて、様々な工学的情報学的研究課題が明確に浮かび上がってくることを期待しているからである。

情報通信技術の進展は言語や文化を超えた人々の交流を拡大し、新たなコラボレーションと摩擦を同時に引き起こしている。例えば、海外におけるオフショア開発、国際共同プロジェクト、国内における異業種異分野連携・産管学連携の拡大など、事例には事欠かない。2007年1月に本時限研究専門委員会が開催した第一回異文化コラボレーション国際ワークショップ(IWIC2007)には80件を超える投稿があり、24か国から100名を超える参加者が集まった。Springer社から30件余の論文が出版される予定である。このような研究の高まりを受け「異文化コラボレーション特集」を企画し、グループウェア、自然言語処理、ソフトウェア工学、メディア、人工知能などの視点から現状の問

題点を分析し、異文化コラボレーションのあり方とその支援技術に関する研究発表の機会を提供することとした。

論文募集を受けて、サーベイ論文1編を含む論文11編が投稿された。採択はサーベイ論文1編を含む論文4編である。論文数は少ないものの、その内容は、言語資源、多言語入力ツール、音声翻訳コミュニケーション、異分野協調ソフトウェア開発など期待どおりの内容であった。こうした特集の企画を継続することによって、この分野が発展していくことを期待したい。最後に、研究分野の広さに戸惑いながらも充実したレポートを書いて下さった査読者の皆様、忙しい中を熱心に御議論頂いた特集編集委員の皆様、今回の企画を進めて下さった編集幹事の吉野孝様、中村素典様、終始お付き合い頂いた学会事務局の奥村梨奈様に感謝致します。

石田 亨 (正員) 京都大学大学院情報学研究所社会情報学専攻教授。工博。IEEEフェロー。情報処理学会フェロー。2005～2006年度、異文化コラボレーション時限研究専門委員会委員長。人工知能、コミュニケーション、社会情報システムに興味をもつ。

異文化コラボレーション論文特集編集委員会

委員長	石田 亨
幹事	吉野 孝・中村 素典
委員	山下 直美・岡田 謙一・片桐 恭弘・中西 英之
	井佐原 均・潮田 明・喜多 千草・中小路 久美代
	林 良彦・美濃 導彦・宗森 純